令和８年８月６日

令和８年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原医療福祉専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園　大原医療福祉専門学校　学校関係者評価委員会は、令和７年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告 いたします。

１．実施日時

令和８年８月５日（水）16時00分～16時50分

２．実施会場

大原学園　札幌校

３．学校関係者評価委員

服部　直毅　　氏　（医療社団法人社団清和会　南札幌病院　理事・事務部長）
工藤　雅之　　氏　（医療法人菊郷会　愛育病院　事務長　大原医療福祉専門学校卒業生）
神部　健史　　氏　（社会福祉法人北海長正会　北広島リハビリセンター特養部四恩園　施設長）
嶋崎　功　　氏　（札幌市北区鉄西第７町内会　会長）
（事務局）
渡邉　良憲　（大原医療福祉専門学校　校長）
佐藤　博吉　（大原医療福祉専門学校　教務部　医療・福祉課　課長）
髙田　直子　（大原医療福祉専門学校　教務部　医療・福祉課　課長補佐）

４．令和 7 年度 学校関係者評価報告

本評価においては、令和７年度自己点検・評価報告書に基づき、学校運営及び教育活動全般について評価を行うとともに、さらなる改善・向上を図るため、自己点検・評価の結果を踏まえて選定した４項目を重点評価項目として設定し、学校関係者による重点的な審議を実施する。

なお、重点評価項目以外についても、自己点検・評価報告書に基づき評価を行い、その結果を学校関係者評価委員会総括に反映する。

下記表中「 評定 」の基準

＜３段階＞

３：基準を満たしており、特筆すべき取組を行っている

２：概ね基準を満たしている

１：基準を満たしておらず改善が必要

【重点項目】

2-4　学修成果目標の達成状況

自己評定（達成度）	2

点検・評価項目	評価の視点
2-4-1　卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力（資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。）の学生の修得状況を把握し、評価していること。	卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力（資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得含む。）の修得についての目標を定め、学生の達成状況を把握し評価しているか
2-4-2　学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	①学生の就職、進学等進路に関して具体的な目標を定め、その目標の達成状況を把握しているか ②卒業後の進路・キャリア形成に関する相談や指導などの支援体制を整備し適切に運用しているか ③卒業生の進路・キャリア形成状況等を踏まえ、当該専門学校の教育課程、教育方法、学修成果等を検証し、必要に応じ、それを踏まえた改善・向上策をとっているか ④卒業生、実習先・就職先など関連する企業及びその他組織の意見や在学生の意見を勘案するなど、多角的、継続的な視点に立った検証方法等について工夫をしているか

（1）総括

目標設定、就職希望者数、就職者数、各コースにおける就職率の把握はできており、高い就職率が維持できております。また、学園本部が中心となり就職サポートシステムで就職活動状況の一元管理を行い、各校の達成状況をリアルタイムに確認を行っております。

学生の利便性を高めるため、求人情報等をウェブ上にて検索できるシステムを導入、在学中に限り学生へ Office365 のアカウントを付与し、タイムリーな連絡や指導が行える環境を整備しております。

課題としては、毎年数名いる研修出社中の就職辞退者を如何にゼロにするかにありました。2025 年度は、研修出社中の就職辞退者をゼロにすることができました。企業情報の収集を行い、学生とのマッチングの精度を高めた結果と考えております。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている

3-3　学生生活に関する支援

自己評定（達成度）	2

点検・評価項目	評価の視点
3-3-1　カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	学生生活等に関する相談体制を整備し、相談対応について、十分、学生に対して周知し、機能、活用されているか
3-3-2　学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	定期的な健康診断の実施、結果のフォロー、健康管理に関する啓発活動など、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用しているか

（1）総括

退学率低減のため、許容できない欠席や遅刻が複数回生じた学生については、早期に教員間で状況を共有しチームで改善に取り組んでおります。

また、教員の学生に対する対応（指導）力の向上のため、外部での指導力研修を 2025 年度も実施し向上への取り組みを継続してまいりました。

結果として、前年度に比べて出席率は 94.6%と１%下がったものの、退学率は 2.0%と 3.7%減少させることができました。しかし、学生の価値観の多様化や、メンタルに不安を持っている学生の増加、家庭環境が複雑な学生の増加などにより、効果的な指導が見つけられないケースが依然として生じております。

入学した学生が学業を全うして、目標である資格取得及び就職へと導けるよう、継続して向上を図るべく取り組んでまいります。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている

3-4　学生の自主的な学習等の促進に対する支援

自己評定（達成度）	2

点検・評価項目	評価の視点
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	①自主学習等に対する相談対応と学習支援 ②成績不振の学生の状況把握と指導 ③留年及び休学者の状況把握と対応 ④退学希望者の状況把握と対応
3-4-2 正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	①部活動などの実績と支援の実施 ②ボランティア活動の実績と支援の実施

（1）総括

ミニテストの実施により、その理解度を学生及び教員が把握できるようになっている。成績不振の学生をタイムリーに把握することで、必要な補習の実施や自主学習の指示を行っております。

休学者及び退学者については、その希望を把握した時点で、担任より上長へ報告共有され、学校全体で状況の把握を行っております。早期に悩みを持つ学生を把握しフォローすることで退学抑止に努めてまいります。

ボランティア活動や地域活動等に関する情報提供を行い、学生の自主的な活動を支援しており、車椅子バスケット大会や介護施設の夏まつりの運営スタッフ等としてボランティア活動を行っております。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている

4-3　教員の資質の向上

自己評定（達成度）	2

点検・評価項目	評価の視点
4-3-1　学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	①教員の資質向上を図るために、研修計画を作成し、計画的に必要な研修を受講させるなど組織的な取組を行っているか ②教育の質の向上に向け組織的なファカルティ・ディブロットメント活動に取組んでいるか
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。【注）職業実践専門課程】	職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（専攻分野の知識等）を組織的に行っているか
4-3-3　教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。【注）職業実践専門課程】	職業実践専門課程の認定校においては、企業等と連携した研修（指導力の向上）を組織的に行っているか

（1）総括

2025年度も大原学園内で全国の教員を対象に各学科にて知識力向上研修を実施しております。

また、学期ごとに学生アンケートを実施し、教授力の把握と評価を行い、各教員へフィードバックし資質向上に繋げております。

知識力、講義力という面では各種試験、国家試験の合格実績に鑑みましても教員の資質は担保されているものと考えております。今後も目標である資格取得及び就職へと導けるよう、継続して向上を図るべく取り組んでまいります。

（2）学校関係者の評価・提言

適正に運営されている

５．学校関係者評価委員会総括

大原医療福祉専門学校の「自己点検・評価報告書」について、重点評価項目以外の項目も含め、令和７年度自己点検・評価報告書に基づき確認・審議を行い、学校運営及び教育活動全般に関する評価を企業、卒業生、近隣住民の視点から検証を行った。

教育成果及び学生指導並びに学校運営の取り組みなどについて妥当であると評価している。現状として、学生、保護者はもちろんのこと、学生を採用する企業等からも評価される良い教育が提供できていると思われる。

今年度も重点課題を４項目に絞り込んで改善活動に取り組んでいるが、今後も維持すべき項目、更に向上を図るべき項目、改善の余地が残されている項目もある。今後も今年度の重点課題について継続して取り組み、更なる改善に繋げていただきたいと考えている。

今後も社会のニーズに対応した教育を継続して行うことが重要であることから、現状に満足することなく社会から専門学校に求められる知識・技能教育についての研究を怠らず、より学生の満足度が高まる教育の実践に期待する。

学校関係者一同、今後も客観的な視点から様々な提言を投げかけることにより、大原医療福祉専門学校が社会の信頼を益々得られるようにサポートして行きたい。